



4



7



6



5



2



3



Nanaiichi

深圳小学教育交流訪問団報告

つづく、つながる ふたつの文化



交流を振り返って

11月13日(日)から17日(木)にかけて、野々市市から教育交流訪問団が中国深圳小学(広東省)を訪問しました。訪問団は野々市小・富陽小・館野小の児童12人と、引率者11人の合計23人。今年も栗市長も同行し、友好締結の絆をさらに深めました。

深圳小学と野々市小学校は、昭和60年に友好校関係を結んで以来相互に訪問し、国際理解を深めています。深圳小学へ到着した時には歓迎式典が行われ、1820人の児童から熱烈的な歓迎を受けました。その後はホームステイ先の家族と対面し、それぞれの家庭へ。中国と日本の暮らしの違いを体感しました。

また深圳小学での授業交流では、現地の児童たちと一緒に創作活動や体育の授業を受けました。3Dペンを使っ

た先進的な工作に、児童らは大興奮！夢中で楽しみながら学んでいました。送別式では栗市長が今回の交流を振り返り、「野々市市と深圳市の、野々市小学校と深圳小学の友好関係が一層深まり、双方が発展することを祈念いたします」とあいさつしました。

- 1. 歓迎式典にて記念品を交換する栗市長(左)と王校長(右)
- 2. 深圳小学での授業交流(創作活動) 3Dペンを使い、タワーや花などを作る児童たち
- 3. ホームステイでお世話になる家族と初対面!
- 4. ホームステイ対面式での記念撮影
- 5. 歓送晩餐会であいさつする児童。中国での体験を経て一段と成長した顔に
- 6. 授業交流(体育) 深圳小学の児童と一緒に楽しく体を動かしました
- 7. 送別式で保護者ボランティアから手作りブレスレットの贈呈



広報写真アルバム
2次元バーコード



富陽小学校
小倉 豪先生

授業を見て、言葉は違っても心を合わせるための活動や工夫、真剣に取り組む姿などは日中で変わらないと思いました。児童団員の皆さんの成長する姿に、エネルギーあふれる野々市市の未来を感じました。今回の経験を今後の成長に生かしていくことを期待しています。



野々市小学校
紺村 和也校長

訪問を通して強く感じたことは、これまで30年以上積み重ねてきた交流の重みと、これからより交流を広め、深めていきたいという深圳小学の思いです。今後どういう形の交流が両市の教育や子どもたちにとって良いものとなるか、考えていかなければならないと思っています。



館野小学校
木戸 七巳さん

自分の知らない他の文化を学ぶときは、自分の知らないことをしっかりと受け入れることが大切だと感じました。私はしょう来色々な人、特に外国の人に関わりたと思っているので、もしまた外国の人と関わる機会があったら、このことを大切にしていきたいです。



野々市小学校
宮岸 泰暉くん

出発するとき、「親とはなれるのはさみしいな」と思いましたが、この旅の経験をいかして自分自身を成長させようと思いました。旅を通して僕が一番感じたことは、言葉が通じなくても心で通じ合えるのだと思いました。よい体験がたくさんできて幸せです。

